2023年8月27日（日）主日朝礼拝説教

『聖霊が宿る体』　井上隆晶牧師
ローマ8章9～11節、ヨハネ14章15～20節

二週間のお休みをもらって長野の実家に帰り、久し振りに母や弟の家族と共に過ごしました。クリスチャンではない人と共に過ごすと、いろんな事に気づき、いろんな事を考えさせられます。母は「死ぬのは怖くない」と言います。私は肉体の死自身はあまり怖くはないのですが、神の前に立つことを恐れます。この恐れは良い意味での緊張感を言っているのであって、死ぬまで必要だと思っています。**人は主人を持たなければなりません。自分が主人になれば、どこまでも自分を甘やかし、堕落してゆくからです。**物事の判断基準を「神とその言葉」に置かない人は、「自分の思い」に置こうとします。しかし「自分の思い」ほど不確かなものはありません。海の波のように定まらず、年齢や周りの状況によってコロコロ変わり、一本筋の通った生き方ができません。この世の人は、神抜きですべてを考えようとします。私はそのような生き方はできません。しかし人間的な意味においては、この世の人を尊敬します。自分をきちんとコントロールでき、相手に合わす力を持ち、言葉だけでなく行動をもって実際に人を助けています。私にはそんな力はありません。大したものだと思います。では私たちクリスチャンのすばらしさはどこにあるのでしょう。パウロはローマ書の中で「聖霊」と「キリスト」を宿すことを強調していますが、三つの重要なことが書かれています。

❶【キリストの内にいれば罪の宣告を受けない】
第一に、1節に「**従って、今や、キリスト・イエスに結ばれている者は、罪に定められることはありません。**」とあります。「**キリスト・イエスに結ばれている**」は原語では「キリスト・イエスの中にいる」です。英語では「in Christ Jesus」です。「**罪に定められる**」は「罪の宣告、罪の判決を受ける」です。キリストの中にいる者は、罪を犯しても、有罪の判決を受けないという意味です。国が変われば法律も変わります。同じようにキリストと一体になったので、彼の法則によって生きる者となったというのです。彼の法則とは律法の法則ではなく、憐れみの法則です。これは大きい事です。誰の支配下で運命が変わるのです。

❷【聖霊があなたを支配している】
第二に、9節に「**神の霊があなたがたの内に宿っているかぎり、あなたがたは、肉ではなく霊の支配下にいます。キリストの霊を持たない者は、キリストに属していません。**」とあります。「**神の霊**」とは聖霊のことであり、「**キリストの霊**」とも言い換えられています。キリストの霊が私たちに宿りました。肉ではなく、霊の支配下にいるとは、人間の支配ではなく、聖霊の支配下にいるということです。

聖霊が本当に自分の内におられるかどうか、どうやって知ることができるでしょう。異言は必要ではありません。初代教会において最初はしるしとして現れましたが、混乱を帰すので、やがて減ってゆきました。しかしすべての人に現れる簡単なしるしがあります。14 節に「**この霊によってわたしたちは『アッバ、父よ』と呼ぶのです。**」とあり、「**聖霊によらなければ、誰もイエスは主であるとは言えないのです。**」（Ｉコリント 11：3）とも書かれています。人がイエス様を信じたり、「父なる神様」と祈れるのが、聖霊が住んでいるしるしだというのです。教会に来る前、私たちは彼らの名を呼ばず、信じていませんでした。しかし今、私たちの口はその方の名を呼びます。それをさせているのは、あなたの内に住んでいる聖霊です。この聖霊が私たちの内に宿っているなら、私たちは聖霊とキリストに支配されているのです。皆さんはなぜ、日曜日に教会に来るのですが、いくら教会から離れても戻って来るのですか？誰かがその思いを与えているのです。その内なる声があなたを支配し、やがてあなたを行動へと駆り立てます。私たちを突き動かしているものこそ、父と子と聖霊なのです。

❸【聖霊が住まうと人は復活する】

第三に、10 節に「**キリストがあなたがたの内におられるならば、体は罪によって死んでいても、〝霊〟は義によって命となっています。**」とあります。信仰をもっても罪がやめられるわけではありません。外なる肉体は罪を犯して死んでゆきますが、キリスト（聖霊）が私たちの内にいるならば、私たちの内なる人は生きているのです。死なないのです。11 節に「**もし、イエスを死者の中から復活させた方の霊が、あなたがたの内に宿っているなら、キリストを死者の中から復活させた方は、あなたがたの内に宿っているその霊によって、あなたがたの死ぬはずの体をも生かしてくださるでしょう。**」とあります。ここでは聖霊を父なる神の霊と言い換えています。その同じ霊が、あなたの中に宿っているなら、あなたも復活するであろうというのです。復活は人間が自然にもっている力ではありません。私たちの内に宿る聖霊によって復活させられるのです。この霊は天地を創造し、人を創造した霊です。必ず私たちを再創造するでしょう。

●近藤紘子（こうこ）さん（79）という方がおられます。生後 8 カ月の時に広島で被爆されます。自宅は爆心地から 1.5 キロの所にあり全壊しました。彼女の父親は牧師でしたので、教会に簡単な家を造り住み始めました。4 歳の時、教会に子どもたちがやって来ました。「なぜ 1 人で来るんだろう」と思っていたら、その子たちは戦災孤児でした。孤児院に入れない子は広島駅の構内にいるのです。そういう姿を見た父はいたたまれず、教会に連れて来たのです。ある日、中学生や高校生が教会にきました。まぶたが額に引っついたままとか、唇が顎に引っついたままの人もいて、顔を見ることができませんでした。あるお姉さんが櫛で紘子さんの髪をといてくれました。ふと見ると、お姉さんの指は全て引っついたままでした。紘子

さんは、B―29 に乗っていた人を見つけ出し、「かたきを討ってやる」と思っていました。牧師の父はアメリカに留学したこともあって、戦後は海外で広島の惨状を伝える活動をしていました。紘子さんが 10 歳の時（1955 年）、アメリカのテレビ番組が父を取り上げることになり一緒にアメリカに行きました。大きなテレビ局のホールで、紘子さんはステージの端にいました。反対側に「エノラ・ゲイ」の副操縦士、ロバート・ルイス氏がいました。「あなたたちが原爆を落とさなければ、多くの人は死なずにすんだ」という気持ちでにらみつけました。焼け野原になった広島の町を見たルイス氏はノートに「神様、私たちは何てことをしたんでしょう」と書いたといいます。そして彼の目から涙がこぼれ落ちました。その姿を見た紘子さんは「この人も同じ人間なんだ」と感じたといいます。「自分は良い人、正しい人だ」と思っていなしたが、心の中をのぞいてみると自分にも「悪」があることに気づきました。紘子さんは「憎むべきは、戦争を起こす心の中の悪であり、それは誰の心にもある。会えてよかった。会えなかったら、いつまでも「私は正しい、悪いのは相手だ」と思っていたことだろう。」と言っています。2016 年、アメリカのオバマ大統領が広島に来ました。ＮＨＫから広島に行ってほしいと依頼があり、大統領のスピーチを聞くと、大統領は「原爆を投下した爆撃機のパイロットを許した女性がいます。彼女は本当に憎いのは、戦争そのものだと分かっていたからです」と言ったそうです。

近藤紘子さんは選ばれ、ロバート・ルイス氏に会うように定められたのだと思います。誰でも会えるわけではありません。彼女は戦争の悲惨さと、人間の罪に向き合う大切さを語り続けるように、神様が選んだ道具なのだと思いました。

私たちもキリストの道具となるように選ばれました。私たちのすばらしさがあるとしたら、この土の器の中に「天のもの、朽ちない神のもの」が入っているという事です。私たちは罪人ですが、キリストは私たちを選び、その中に住んで下さいました。感謝です。こうして私たちは罪があるまま神の子とされたのです。神の子ですから、神と同じ性質のものを持っているのです。それが聖霊とキリストです。親子のＤＮＡが一致するようなものなのです。もし私たちが神の子なら、神の相続人となります。私たちは、来るべき神の国を受け継ぐのであり、永遠の命を受け継ぐのです。聖霊を持つということが、いかにすばらしいことかお分かりでしょうか。聖霊が私たちの内に住まうのは、永遠の命をもらうことの手付金なのです。すでに地上において天の方である聖霊を受け、その一部を体験しているのです。やがて天の朽ちない宝物を受け継ぐでしょう。この聖霊との共同生活を大切にしたいと思います。